

「逸翁秋のお茶会」を開催します

現在の阪急阪神東宝グループの創業者である小林一三^{こばやしいちぞう}（1873～1957）は、私生活では雅号「逸翁^{いつおう}」を名乗り、趣味の俳句や茶の湯を通じて人々との交流を楽しみ、また数多くの著作を残しました。

阪急文化財団では、逸翁を偲び2020年まで祥月命日である1月25日に開催していた「逸翁白梅茶会」を、2024年からは、さわやかな秋の好季節に美術館での芸術鑑賞もあわせてお楽しみいただけるよう新旧逸翁美術館の開館記念日である10月3日に時季を改めて、「逸翁秋のお茶会」として開催しています。

人々の心の潤いのため茶道を広めたいと願っていた逸翁は、『お茶は、釜一つ、茶碗一つあればよい』という千利休^{せんりのきゅう}の言葉があるように、自邸に座席式の茶室「即庵^{そくあん}」を造るなど形式にとらわれることなく茶の湯の本質を追求し、若い友人たちをこの世界にいざない、ともに楽しみました。

本年の「逸翁秋のお茶会」は、そういう逸翁の思いを受け継ぎ、初めての方でも気軽に参加して茶の湯に親しんでいただけるよう、逸翁や阪急とも縁の深い大阪大学と関西学院大学の茶道部をお招きし、学生たちが心を込めて点てるお茶を楽しむ会として開催いたします。

両大学の学生たちが持ち寄った茶道具を用いて、瑞々しい感性と自由な発想で工夫した、それぞれの茶会の趣向を楽しみながら、逸翁美術館で開催中の展覧会「のむ一茶器と酒器と喫煙具一」で茶道具などの美しさを愛で、また、逸翁の公私にわたる事績を紹介する小林一三記念館や逸翁の著作をはじめ阪急電鉄や演劇関係の貴重な資料を所蔵する池田文庫で逸翁の思いに改めて触れる、そういう秋の一日をお過ごしいただければ幸いです。

茶道未経験の方は、この機会に最初の一步を踏み出してみませんか。

記

【開催日】 2026年10月3日（土）

【会場】 小林一三記念館「人我亭^{にんがてい}」 大阪府池田市建石町7-17
（阪急宝塚線池田駅下車 徒歩13分）
池田文庫「広間」 大阪府池田市栄本町12-1
（阪急宝塚線池田駅下車 徒歩10分）

【定員】 全8組 各組定員16名
関西学院大学茶道部が担当する小林一三記念館「人我亭」での薄茶席と、大阪大学茶道部が担当する池田文庫「広間」での薄茶席の二席を、各組毎に回っていただきます

【参加費】 おひとり 2,200 円 (税込)

小林一三記念館および逸翁美術館の観覧料 (10月3日当日限り有効) を含む

【申込方法】 8月上旬に公開予定の阪急文化財団サイト本茶会紹介ページで、各組の開始時間等の詳細をお知らせしますので、同ページ内の Web フォームよりお申し込みください



<https://www.hankyu-bunka.or.jp/topics/2026/07/08/2026103/008419/index.html>



小林一三記念館「人我亭」



池田文庫「広間」

■逸翁美術館「のむ—茶器と酒器と喫煙具—」について <ご参考>

人が生きる上で欠かせない存在である水。昨今の温暖化現象により、水分補給の大切さが謳われる中、一日の中で水やお茶といった水分を“飲”まない人は一人もいないでしょう。また、遙か昔から飲料として、人々の楽しみの一つとして製造されてきた酒類も、現代に至るまで愛好されて、嗜む程度の人から愛酒家まで、お酒を“呑”む行為は日常の楽しみともなって受け継がれています。そして、お酒と同じく古くから嗜好品として知られる煙草は、それを楽しむための道具を“喫”煙具と称して、絵画などにも描かれるようになりました。

この度の展覧会では、「飲む」ための茶碗やカップ、酒を注いで「呑む」ための徳利や盃、煙草を「喫む」ために使用する道具や、それにまつわる用器などを取り上げ、三つの「のむ《飲、呑、喫》」に注目した作品を展示します。

<https://www.hankyu-bunka.or.jp/itsuo-museum/exhibition/20260919/>



逸翁美術館では、展覧会開催中の日曜日に、館内の「^{そくしんあん}即心庵」で呈茶を実施しております。こちらの方も、ぜひご利用ください。

<https://www.hankyu-bunka.or.jp/itsuo-museum/guide/teicha/>

本件に関するお問い合わせ先

仙海 義之 (上席学芸顧問)

□ 展示担当 竹田 梨紗 (主任学芸員)

公益財団法人 阪急文化財団 逸翁美術館 〒563-0058 大阪府池田市栄本町 12-27

TEL: 072-751-3865 FAX: 072-751-2427 E-mail: itsuo-museum@hankyu-group.jp